

【用語解説】

いこう
遺構：遺跡で見つかる住居址や溝など人が構築した施設の痕跡。

いぶつ
遺物：遺跡から出土した土器や石器など、その時代の人が使用していた道具類。

おとしあな
陥穴：動物を捕獲するための穴で、底面に逆茂木などを据えた穴が掘られる。

さかもぎ
逆茂木：先端の尖った枝木や杭。陥穴の底に据えられていたと考えられている。

しゅうせき
集石：焼けた石や炭が狭い範囲から見つかることが多い。下部に掘り込みが認められることもある。調理を行ったものと考えられている。

石を焼き、濡れた葉や土をかぶせて蒸し焼きにしたと想定されている。

竪穴住居：地面を掘りこんで、下を平らにして床を作り、その上に屋根をかけた半地下式の構造。室内に炉やカマド等の調理施設があることが多い。

しょうしつじゅうきょ
焼失住居：火災などの理由で家が焼け落ち、埋没した住居。焼けた土（焼土）や家の構築材が焼けて炭になったもの（炭材材）が見られる。

炉：地表面ないしは地表面を掘りくぼめて火をたいた部分。

カマド：前面に焚口を開き、上に鍋や釜をかけ、中で火を焚いて煮炊きする厨房施設。煙を外に出す部分を持つ。

ちかしきこう
地下式坑：地下に部屋を持つ施設。竪坑部分から地下に降りる。食糧や器物などの貯蔵・格納や野菜などの栽培保存施設といった用途が考えられている。

とうす
刀子：現在の小刀やナイフに当たる小型で短い刀。



カマド復元図

（出典）カルチュア はっとり No.1

（財）大阪府文化財センター 日本民家集落博物館

メ モ



小保戸遺跡所在地：相模原市城山町小倉地先

小保戸遺跡 現地見学会資料 2008. 3. 8（土）

 財団法人 かながわ考古学財団
〒232-0033

神奈川県横浜市南区中村町 3-191-1

TEL:045-252-8689 / FAX:045-261-8162

ホームページ: <http://www.kaf.or.jp/>

E-mail: kaf@kaf.or.jp



（財）かながわ考古学財団

小 保 戸 遺 跡

（相模原市城山町 No.51 遺跡）

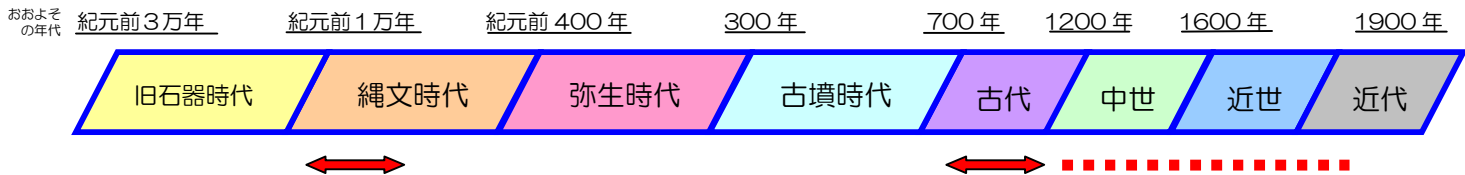
小保戸遺跡の調査は、国土交通省関東地方整備局による一般国道 468 号線（さがみ縦貫道路）建設事業に伴う事前の発掘調査として平成 19 年 2 月から実施しています。

遺跡は相模川の上流部、串川との合流地点付近右岸の河岸段丘上に位置し、標高は約 132m 前後を測ります。本遺跡西側の一段高位の段丘面上には大保戸遺跡、串川を挟んだ対岸北側には津久井城跡（馬込地区）が位置しています。

これまでの調査で、縄文・古代（奈良・平安時代）・中世（鎌倉・室町時代）・近世（江戸時代）にわたる幅広い時代の遺構と遺物が発見されました。本日は各時代の調査成果と現在調査中の遺構をご覧ください。



小保戸遺跡位置写真(東から)



※矢印と点線は、今回の調査で発見された遺構や遺物のおおよその時期を示しています。



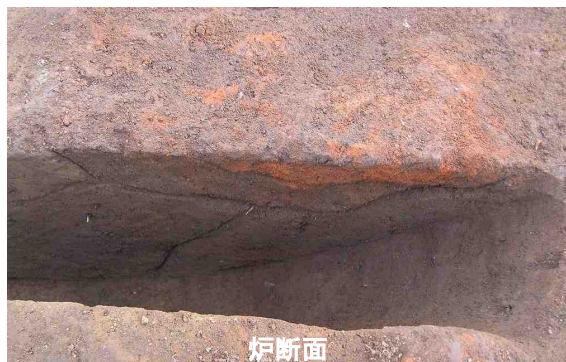
焼失住居址



カマド断面

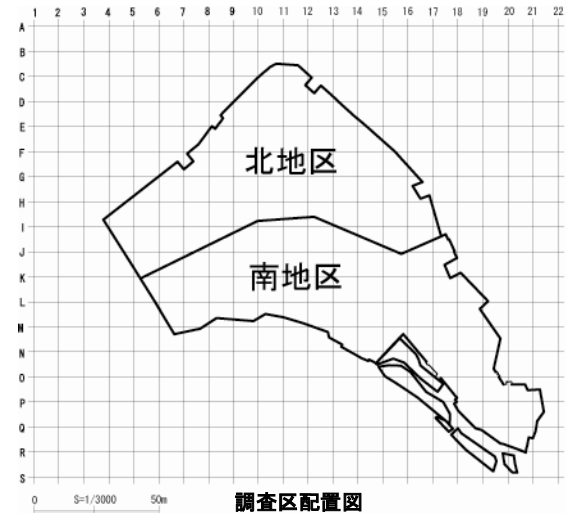


住居址群



炉断面

カマドを持つ住居と炉を持つ住居が見つっています。



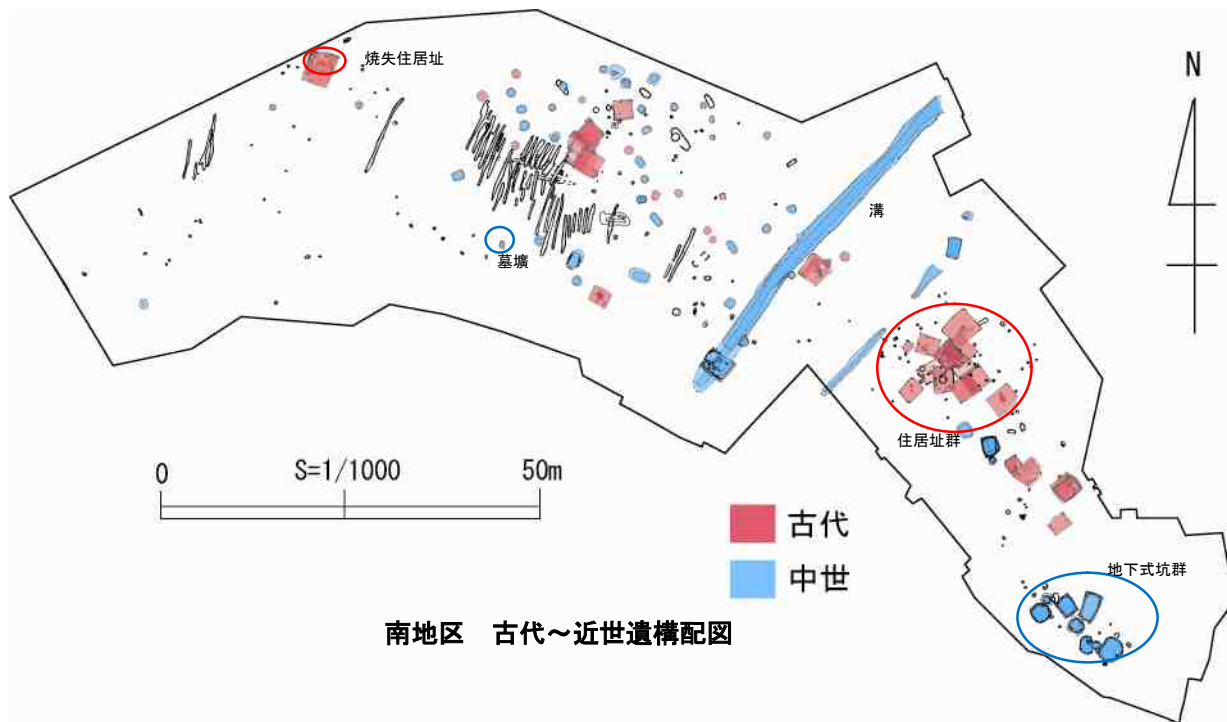
調査区配置図



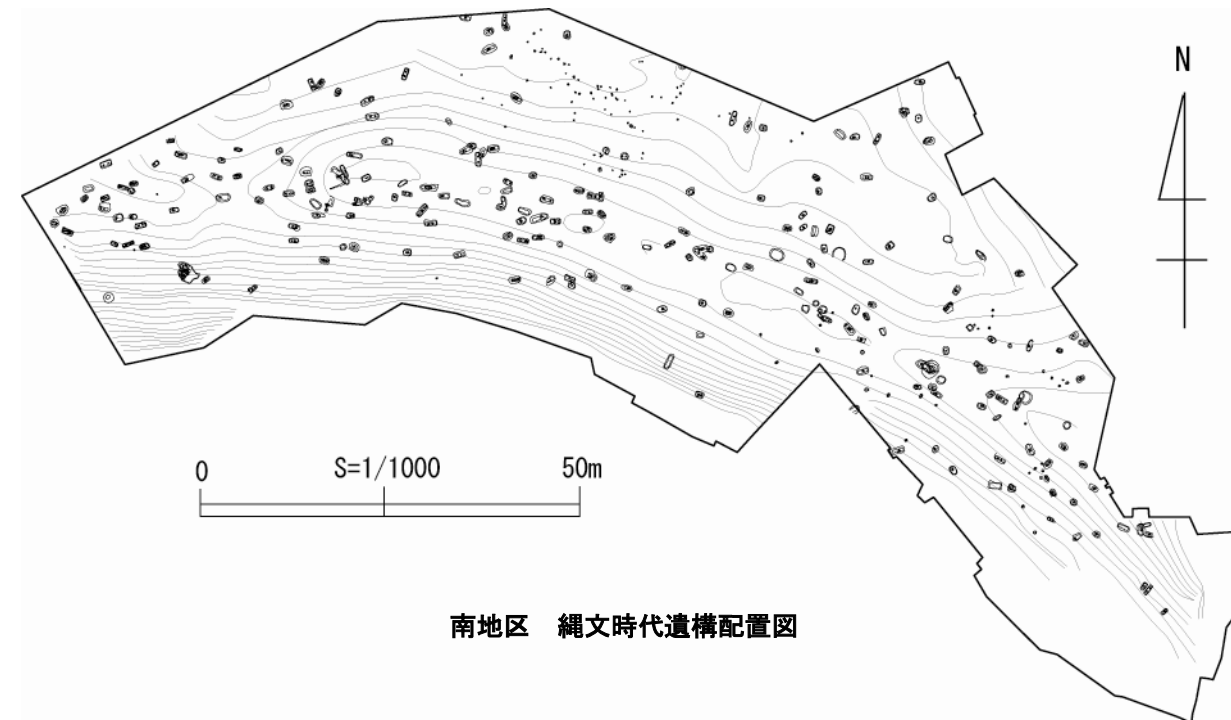
南地区 縄文時代全景写真



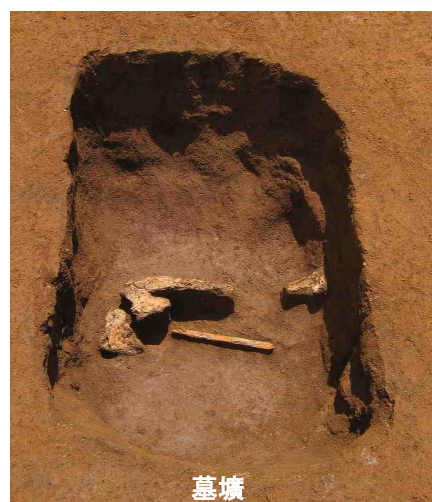
谷筋に沿って、たくさんの陥穴（おとしあな）が発見されました。様々な形態が見られます。



南地区 古代～近世遺構配置図



南地区 縄文時代遺構配置図

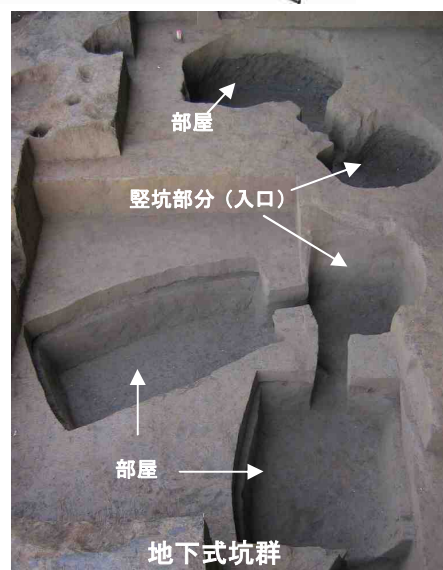


墓域

(人骨とともに古銭と刀子が見つかりました)



溝



地下式坑群



集石

(大きな石を使用したものと小さな石を使用したものが見つっています)